

# 木古内町郷土資料館 いかりん館

きこないちようきょうどしりょうかん いかりんかん

木古内町  
郷土資料館  
いかりん館



▲WEB MAP

**所** 木古内町字鶴岡74-1

**Tel.** 01392-2-4366

**時** 9:00~16:00

**休** 月曜(祝日の場合は翌日)

**料** 無料

**ガイド** 随時受付

**P** あり

**Taxi** 新函館北斗駅から約50分

**バス** 木古内駅から函館バス「江差高校前行き」「江差病院前行き」乗車約7分、「鶴岡禅燈寺前」下車、徒歩1分



津軽海峡に面した土地柄のため、北東北と共通する土器がずらり

縄文土器の優品が多く、さらには露出展示のため、間近で見学できる施設。ガイドが在館していれば、気軽に説明を聞くことができるため、大人はもちろん子供のリピーターも多く、時間を忘れて、展示物とガイドとの対話を楽しむことができます。



収蔵庫(要事前予約)

縄文早期から晩期までの土器など約300点を露出展示し、土器の変遷を間近でみることができます。定期的に展示物の一部入れ替えを行い、展示数も増やすなど、リピーターが楽しめるよう工夫しています。

縄文土器の優品が多く、さらには露出展示のため、じっくり見学したい場所。オーダーメイドの案内に心がけ、来館者の興味を引き出すおもてなしで何度も訪れたいくなります。



縄文土器(新道4遺跡)

蟹ばさみの文様と幾何学文様が踊る土器。地域性が強い文様ですが、どこかモダンな雰囲気を感じられます。

この遺跡の土偶の特徴はいずれも小型の板状で、目・鼻・口は省略された抽象的な顔のものが出土しています。

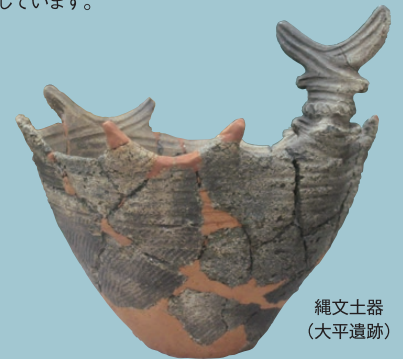


子供の歯形がついた粘土(蛇内遺跡)

推定2~3歳の幼児の歯形がついた全国的にも類例のない粘土。粘土で遊んでいた幼児がくわえて、偶然つけたものではないかと考えられています。



板状土偶(札苺遺跡)



縄文土器(大平遺跡)

道南地域の縄文晩期を語る上で欠かせない不思議な突起が特徴の土器で、独特な佇まいは見応えがあります。



元小学校の校舎を利用した博物館